

第6学年社会科学学習指導案

令和3年10月29日(金)5校時
3組 男子15名 女子14名 計29名
指導者 小川 誠

1 大会及び本校の研究主題との関連

本研究大会の大会主題及び本校の研究領域「心の教育」について考える機会とし、社会科の授業改善を図ることで、子供の「自己肯定感」を高めることができるのではないかと考えた。

(1) 大会主題との関連について

大会主題「子供が見方・考え方を働かせ、主体的に調べ考える社会科学学習の在り方～自己を見つめ、自己肯定感を高める子供の育成の視点から～」を目指した授業を行う。研究の視点に沿って、学習内容・学習過程・学習指導法を工夫し、本小単元及び本時の授業を行うことにした。

ア 視点1 主体的に調べ考えることのできる学習内容の工夫（肝属らしい地域素材）

本校区内にある海上自衛隊鹿屋航空基地は、戦前から使われていた航空基地であり、旧日本海軍跡地でもある。本校区・本市の戦争と関わりが深い素材を授業で扱うようにする。

イ 視点2 小単元における学習過程の工夫

「1小単元1サイクル」の学習過程を取り入れ、学習問題・追究の柱を設定し、小単元全体的見通しをもちながら、調べたり、まとめたりすることができるようにする。

ウ 視点3 一単位時間における学習指導法の工夫

一単位時間における問題解決的な学習過程を取り入れ、学習の流れに見通しをもちながら、学習のめあてに沿った資料提示や発問を行い、学習内容を深めることができるようにする。

(2) 本校の研究主題との関連について

本校の研究主題「自己を見つめ、他者のよさに気づき、互いに認め励まし高め合う子どもの育成～自己肯定感を高める取組を通して～」を目指し、テーマ下線部を重視し検証を行う。

ア 視点イ②交流活動の工夫

資料から読み取ったことをまとめ、自他の考えを比較し、自分の考えを再構築したり、根拠のある考えをもったりすることで、「認め合う力」を高めることができるようにする。

イ 視点ア③振り返り

小単元を通して、学習した内容や方法に対する振り返りを継続し、小単元及び本時における自己の高まりが分かるようにしたり、「他者理解」を深めたりすることができるようにする。

2 小単元名 戦争と人々の暮らし（大単元 日本の歴史）

3 目標

- (1) 日本がかつて戦争をし、国内外に大きな被害を出したことについて理解するとともに、写真・映像資料、年表等の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 【知識及び技能】

- (2) 日中戦争や日本に関わる第二次世界大戦の特色、出来事や人々への関連や意味を多角的に考え、長い戦争に伴う国民生活や各方面への影響について調べたことを関連付けたり総合したりして、この頃の世の中の様子を考え、適切に表現することができる。【思考力・判断力・表現力等】

- (3) 日中戦争や日本に関わる第二次世界大戦について、主体的に学習問題を解決しようとする態度やよりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、日本の歴史を受け止め、国を愛する心情を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

4 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 日本がかつて戦争をし、国内外に大きな被害を出したことについて理解している。 - 写真・映像資料、年表等の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けている。	日中戦争や日本に関わる第二次世界大戦の特色、出来事や人々への関連や意味を多角的に考え、長い戦争に伴う国民生活や各方面への影響について調べたことを関連付けたり総合したりして、この頃の世の中の様子を考え、適切に表現している。	日中戦争や日本に関わる第二次世界大戦の経緯や被害、戦争中の人々の暮らしについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。

5 小単元の構成について

【中心概念】	【事実を基に獲得する知識】（授業のまとめ）	【具体的な事実】（用語）
日中戦争・太平洋戦争により、日本は戦争中心の体制となり国民生活に大きな影響を及ぼした。日本国民や近隣諸国に大きな被害をもたらした。戦争が終わった。⑥	◆空襲で多くの人々が犠牲になり、東京をはじめ多くの都市が大きな被害を受けた戦争を日本が戦ったこと。①	東京大空襲・鹿兒島空襲 鹿屋空襲後の様子
	◆日本が国内の不況を打開するために中国大陆に進出したことから、国際社会で孤立していき、中国との戦争が始まったこと。 ◆日本がアメリカ・イギリスとも戦争を始め、戦域を広げていったこと。資源の不足と戦力の違いや、占領地で起こった抵抗運動によって、日本が徐々に追い込まれていったこと。②	満州事変・満州国 国際連盟からの脱退 日中戦争・鹿屋会議 第二次世界大戦 太平洋戦争・真珠湾攻撃 抵抗運動・アメリカ反撃
	◆国が戦争をおし進めることに総力をあげていった結果、人々の暮らしが物心両面で大きな制約を受けるようになっていったこと。③	物資不足・国家総動員法 隣組・報道制限
	◆学校では戦争遂行のための教育が行われ、家庭でも戦争の影響が見られ、子供の生活にも戦争の影響があったこと④	教科書・戦争訓練・協力 軍国主義・学徒出陣
	◆アメリカ軍の圧倒的な航空力によって、日本各地が空襲を受け、大きな被害を受けたこと。 ◆沖縄戦、原爆投下によって、多くの命が奪われ、満州や樺太などでも多くの人が犠牲になり、戦争が終結したこと。⑤	空襲・疎開・特別攻撃隊 鹿屋基地・鹿屋戦争遺跡 沖縄戦・広島・長崎 原子爆弾・原爆ドーム 玉音放送・ポツダム宣言

6 単元について

（１）小単元について

本小単元は、学習指導要領の第6学年の内容（２）アー（サ）（シ）及び（２）イー（ア）を身に付けることができるようにすることをねらいとして設定した。日本は、満州への進出をめぐって国際社会で孤立し中国との戦争を始め、アメリカやイギリスとも戦争を始め、戦域がアジア・太平洋地域に広がっていき、戦争遂行が優先される中で、人々の暮らしは大きな制約を受けたことが分かるようにすることをねらいとする。また、各種資料を効果的に活用し、調べたことをまとめ、表現することで、当時の世の中の様子や人々の暮らしの様子をつかみ、それらの戦争をきっかけに、我が国の現在があることに気付くことができるようにする。

（２）子供について

本学級の子供は、6年生で始まった歴史学習に関心をもちながら取り組んでいる。年表をもとに社会の動きをつかんだり、歴史上の人物の功績をもとに社会との関わりをつかんだりすることができてきている。また、過去と現在の社会的事象を比較しながら、学習を進めてきている。

しかし、社会科の学習に苦手意識をもっている子供もいる。基礎的事項を知っても意味を理解できなかったり、他との関連を捉えられなかったりするために、基本的事項に結びつけることができない子供もいる。

本市におけるGIGAスクール構想の取組で、子供が一人一台のタブレットPCを手元に置き教科書だけでなく、資料や映像を基に調べたり、調べたことをまとめて発表に生かしたりする追究活動の幅が広がり、意欲的に活用している。得意不得意の差は大きいものの、基本的な操作を全ての子供ができるために、まとめたことを共有したり、振り返りをしたりすることはできる。

「交流活動の工夫」をすることで、友達との交流を通して、自分の考えを変化・付加・強固にするなど再構築する姿が見られ始めている。また、「振り返り」をすることで、本時の自分の学びを確かめ、自分の成長や友達の良さにも気付くことができるようになってきている。

7 指導計画（総時数 7 時間）

過程	主な学習活動【評価】
つかむ ・ 見通す ①	1 戦時中と現在の様子に着目し、戦争と人々の暮らしについて学習問題を立てる。① 日本が戦った戦争は、どのような戦争だったのだろうか。また、それによって人々の暮らしはどうなったのだろうか。 2 学習問題について予想し、追究の柱を立てる。 ○ 戦争の様子 ○ 人々の暮らしの様子 ○ 子供の暮らしの様子 【態】学習問題について予想や学習計画を立て主体的に追究しようとしている。
調べる ④	3 追究の柱について、個人やグループで調べ、全体で話し合う。 (1) 日本が戦った「戦争の様子」について、資料を基に調べる。② (2) 戦時中の「人々の暮らし様子」について、資料を基に調べる。③ (3) 戦時中の「子供の生活の様子」について、資料を基に調べる。④【本時】 (4) 日本が戦った「戦争の終わり」について、資料を基に調べる。⑤ 【知技】追究の柱について、資料を基に調べ、分かったことをまとめることができる。
まとめる ・ 生かす ②	4 追究の柱ごとにまとめたことを基にして、学習問題についてまとめる。⑥ 日中戦争・太平洋戦争により、日本は戦争中心の体制となり国民生活に大きな影響を及ぼした。日本国民や近隣諸国に大きな被害をもたらした、戦争が終わった。 5 戦争に関する記録を基に、当時の様子や人々の思いについて考える。⑦ 【思判表】戦争の被害や戦争中の様子から戦争が人々の暮らしに与えた影響を考え、自分の考えを表現している。

8 指導に当たって

(1) 視点イ②交流活動の工夫

ア 子供が自分の考えをもって、友達と交流する場を設定する。友達との交流を行うことで、他の考えにふれ、自分と友達との考えを比較し、再構築することができるようにする。

イ 子供が発言する際には、友達の言葉を参考にしながら、自分の言葉の根拠としたり、自分や友達の言葉を深めたりすることができるようにする。

(2) 視点ア③振り返り

ア 一単位時間の学びの振り返りを行うことで、毎時間の学びの深まりを実感することができるようにする。小単元を通して、子供自身が学んだことを明確にすることができるようにする。

イ 本時の学習内容を振り返り、学習問題の解決に向けた事実を基に獲得する知識（授業のまとめ）を確認することで、本時の位置や学び取った知識・技能を明確にすることができるようにする。

(3) タブレット端末の活用

ア 資料提示や振り返りの過程において、タブレット端末を活用することで、主体的な学びや対話的な学びを充実させ、学びを実感しながら子供の自己肯定感を高めることができるようにする。

イ 学習活動の随所でタブレット端末を活用し、子供自身もタブレット端末の使用に慣れ、教科書やノートによる学習とタブレット端末による学習を効果的に進めることができるようにする。

9 本時

(1) ねらい

戦争中の子供の暮らしの様子を学校や家庭での様子に着目して調べ、戦争が子供の暮らしに与えた影響について総合することで、戦時中の子供の暮らしの特色を表現する。【思判表】

(2) 実際

過程	主な学習活動	時間	教師の働きかけ ①交流活動 ②振り返り ※評価
つかむ・見通す	1 これまでの学習を振り返る。 ・戦争の影響は、人々の暮らしにもあった。 ・本時は子供の暮らしを調べて考えよう。 2 本時のめあてを確かめ、予想を立てる。 子供たちは、どのような暮らしをしていたのだろうか。 ・家庭での生活にも、影響があったのかな。 ・学校での生活にも、影響があったのかな。 ・どのような暮らしをしていたのかな。	7	○ 学習計画表を基に小単元を振り返り、内容や方法に見通しをもつことができるようにする。 ○ これまでの学習で用いた資料を提示することで、戦争中の人々の暮らしの様子を想起するようにする。 ① これまでの学習を根拠に調べる視点に基づく予想を立てることができるようにする。
調べる	3 資料を基にして、学校生活や家庭生活に着目して、戦時中の子供の暮らしの様子を調べる。 (1) 学校での子供の様子を調べる。 ・教科書に戦争に関する内容がある。 ・子供が戦争の行事に参加している。 ・国の考えに沿うことを大事にしている。 (2) 家庭での子供の様子を調べる。 ・雑誌・映画にも戦争のことがある。 ・チャンバラ、戦争ごっこで遊んだ。 ・生活は苦しく、手伝いが多かった。 4 戦争の影響から、子供はどのような暮らしをしていたか、調べたことを基に話し合う。 ・戦争に関することを多く教わっていたので、戦争に向かう生活だったのではないか。 ・物資が配給だったので、物が足りずに苦しい生活をしていたのではないか。 ・戦争中は〇〇だったので、子供は、〇〇な生活をしていたのではないか。	28	○ 戦争中の子供の様子の資料から、視点に沿って調べ、子供の状況をつかむことができるようにする。 ○ 資料を基に調べた社会的事象を思考ツールにまとめることで、視点に沿って分類することができるようにする。 ○ 学校や家庭で過ごす子供の様子を比較したり、総合したりすることで、どのような暮らしが自分の考えをもつことができるようにする。 ○ 戦争中の子供の様子と現在の子供の様子を比較することで、戦争中の子供の暮らしの様子を言葉で表現することができるようにする。 ① 自分と友達の考えを比較し、調べた社会的事象を根拠にした考えであることを吟味するようにする。
まとめる・生かす	5 本時の学習について、まとめる。 子供の生活は、戦争一色の世の中で、国のために生きる暮らしをしていた。 6 「わかった」「できた」を確かめる。 ・戦争中の子供の暮らしは、〇〇だったので、〇〇な暮らしをしていた。 7 本時を振り返り、次時の見通しをもつ。 ・〇〇さんの考えが分かりやすくよかった。 ・戦争中は、社会全体が戦争一色になる。 ・戦争はどうやって終わりに向かうのだろう。	10	※ 事実を根拠にししながら、戦争中に子供がどのような暮らしをしていたか、交流しながら表現できたか。 ○ 本時の内容の定着を見届けるために、本時のまとめを具体的な言葉で表現することができるようにする。 ② 学習計画表や振り返りカードに本時の学びを記録することで、本時の学習の深まりに気付くことができるようにする。

